

教育支援だよりは、先生方と支援教育に関する「こんなこと良かった！」「役に立った！」といった情報共有を目的に発行しています。瀬谷支援学校の取り組みを多くの方に知ってもらうためのおたよりです。

今回は、前副校長の藤田先生にお願いしていたコラム記事の続きになります。

～自傷行為のナゾを解く!?～

—その6—

～前回までのあらすじ～

頭部の自傷行為が多かったAさん。その行動について、Aさんが自傷に及んでしまう時の環境や状況などを分析していくと、「一人で過ごすことによってヒマで非常に不安な状態におかれる」と自傷行為に及んでしまうことがわかりました。Aさんにとって一番安心する状態は、「大人が近くにいる」ことでしたが、卒業後を見据えると、ほかの手立ても必要になってきます。そこで、Aさんの周りの環境を調整することで、不安を取り除くことにしました。

麦ジュースがない環境



① 壁面が大きく、比較的柔らかい場所を設定する。

Aさんは、「背中」を何かによりかかることが大きな安心につながることが、これまでの指導で分かっています。そこで、Aさんの過ごしスペースに着目しました。壁面は、Aさんが座って過ごす際に大きな面で背中を預けることができるので、背面からの余計な不安を感じずに済みます。壁面がコンクリートではないので、仮に自傷があってもダメージはだいぶ軽減されます（音は派手になりますが…）。

② 壁面には、掲示物、展示物が一切ない状態にしておく。

こだわりが強く、手に触れたものは、とりあえずちぎったり、握りつぶしたり、突っ込んだりしてみないと気がすまないようです。制止するとさらにエキサイトするので、制止しないでよい環境を整える必要があります。また、そのほかの雑多な触覚刺激もなくすることで、余計な刺激が減り、また、不適切な行動で注意されることもありません（注意されることで、教員がかかわってしまうことを防止することもできます）。

このほかにも、あと2つほどAさんの安心できる環境を整えました。その話は、次号にて…。



自作教材教具費を利用して教材を作ってみませんか？



PTA会計予算で教材を作製できます。

利用限度額は5000円／1件です。詳しくは職員会議資料、教材教具係（高等部・小島先生）にご相談ください。

- ・作製した教材は、年度替わり等で使用しなくなった場合は、学校の共有財産として保管します。



【昨年の自作教材紹介】

～手順書を裏返すと、好きなイラストが出てくる～

コメント 子どもが朝の支度を一人でも進められるよう考えて作成しました。見通しをもって支度に取り組むことができたほか、めくると子どもの好きなイラストが出てくるようにしたので、毎日楽しみながら支度をすることができました。

夏季公開講座情報

適応的行動への支援

～太田ステージを軸に考える～



日時：7月23日（水）13:30～16:00



〆切：7月14日(月)

講師：高畠 裕子氏（社会福祉法人 あしたか太陽の丘

障害者支援施設 富士見学園）

場所：本校（大食堂）

不適応とされる行動に対して、どのように支援したら良いか悩むことが多いのではないか。瀬谷支援学校でも使用している太田ステージを基軸として、発達段階ごとに起こりやすい不適応行動と、適応行動を身につけるための支援について一緒に学んでみませんか。

学齢期から青年成人期まで、生活面等も含めてお話しいただきます。



